2024 年度（秋学期）
Griffith University（オーストラリア）

Y.I.（メディア創造学科・2 年次生）

Ⅰ．留学レポート

① 留学を目指した理由

私には、将来エンタメ業界でプロデューサーとして働きたいという夢があります。そのために必要な英語力を身につけるため、大学在学中に海外で生活し、現地の人々と直接コミュニケーションを取る経験がしたいと考えるようになりました。留学を本格的に意識し始めたのは、大学 1 年の終わり頃に 2 年生対象のセメスター語学留学制度の存在を知ったことがきっかけです。また、家族と離れて生活するのが初めてなので、自立心や柔軟性を養う良い機会になると考え、挑戦することを決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学を考え始めた 1 年生の冬頃から、TOEIC 対策用に持っていた参考書を 2 冊、さらに『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』を 2 周しました。ただ、私の目標はスピーキング力の向上だったため、今振り返ると、TOEIC の勉強ではなく実際に「話す練習」をすべきだったと感じています。ビザ申請などの手続きは、エクセルエデュケーションさんにサポートを依頼し、スムーズに準備を進めることができました。

③ 現地到着後

関西空港からは同じ大学の女子学生 5 人で出発しました。ホームステイ先に到着後は、少し休憩した後ホストファミリーがゴールドコーストの街を案内してくださり、一緒にスーパーマーケットにも行きました。そこで現地で使える SIM カード（Lebara）と、交通機関利用に必要な「GO CARD」を購入しました。SIM カードは、購入から 3 日以内に使えるようになりますが、すぐには使えない場合もあるので注意が必要です。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

グリフィス大学のキャンパスには、レストラン、売店、カフェ、ジムなどの施設が充実しており、GELI の学生はこれらを自由に利用できます。私はよくキャンパス内のカフェで飲み物を買ってから図書館で勉強していました。敷地内はとても広く、階段や坂が多いため移動に体力が必要ですが、その分自然が豊かで、運が良ければ木の上にコアラを見つけることもできます。

◆ 授業内容、課題、試験

どの DEP（レベル）でもグループワークが多く、積極的に発言すればするほど英語への自信がついていきます。学んだ単語や表現をすぐに使える環境なので、英語力の向上だけでなく、クラスメートとの距離もぐっと縮まります。席は自由なので、毎日違う場所に座っていろんな人と話すことをおすすめします。課題は 1 日 30 分程度で終わる量なので、放課後の時間も十分楽しめます。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

GELI のアクティビティにたくさん参加しました。オーストラリアの伝統料理を食べながらのパーティーや、ハンドクラフト体験など、現地の文化に触れることができてとても楽しかったです。異なるクラスの学生とも交流できるので、交友関係も広がります。参加費が必要なアクティビティもありますが、自分で行くよりもお得で安全に楽しめるのが魅力です。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先は途中で 2 回変更になりました。今では良い経験だったと思えますが、最初の家庭では 1 週間まったく野菜が出なかったり、朝から家族喧嘩があったり、英語のミスを指摘されたり、ペットの犬に洗濯物を汚されたりと、慣れない環境にストレスを感じてしまいました。何でも我慢すればいいわけではありませんが、もし「この文化、この家庭ならではの面白さ」と捉えて適応できれば、後々とても良い思い出にすることもできると思います。

⑦ 長期休暇の過ごし方

二週間以上の長期休暇があったので、ブリスベンの美術館や古着屋を巡ったり、少し遠くまで足を伸ばしてパースへ旅行したりしました。また、祝日を含めた 4 日間の短期休暇にはニュージーランドに行きましたが、スケジュールがかなり詰まってしまったので、もっと余裕のある期間に行く方がよかったと思いました。海外旅行の計画から実行までを自分でやってみたのはとても楽しく、自信にも繋がりました。

II．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ブリスベンにて行われたビリーアイリッシュのコンサートに行ったことです。コンサートがある 3 日前に知ったのですが、自分の興味のあるアーティストがすぐそこでライブを予定していること、まだチケットが売られていることに運命を感じ、速攻でチケットを買いました。本物のビリーが目の前でパフォーマンスをしている光景が信じられず、途中記憶がないくらい夢中になってライブを楽しみました。ブリスベンの郊外でのライブで、終わったのが夜遅くて家に帰れたのは深夜 1 時でしたが、本当に行ってよかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

ホームステイ先の水道が故障し、3 日間お風呂もトイレも使えなくなったことが一番つらかったです。仕方なくビーチにある無料のシャワーを利用しましたが、水を浴びられるだけでもありがたく感じました。ちょうど年末で、サポートをしてくれるエクセルさんも休暇中だったため、相談できる人がいなかったのも心細かったです。普段の生活で当たり前に使っているものが使えないことの不便さや、日本のインフラのありがたさを実感しました。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ゴールドコーストの人々は、知らない人にも気さくに話しかけます。道ですれ違って目が合うと笑顔で挨拶してくれることも多く、そんな何気ないやり取りに温かさを感じました。また、日本では道に迷っている人を見かけても声をかけるのをためらうことがありますが、オーストラリアでは誰もが自然に手を差し伸べます。高齢者がバスに乗る際には周囲の人がすぐにサポートし、飛行機では荷物の上げ下ろしを進んで手伝う姿にも感動しました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 日本から持っていって、特に役に立ったもの

ノートパソコンは課題やメールのやり取り、日本の大学のオンライン授業にも活用できたので、本当に持って行ってよかったと感じました。また、日本の文房具（シャーペン、消しゴム、マスキングテープなど）は使いやすく、ちょっとしたプレゼントとしても喜ばれました。日焼け止めや冷感シートは、オーストラリアの強い日差しや暑さに大活躍。変換プラグや延長コードも必須アイテムです。さらに、味噌汁の素やふりかけなど日本食を少し持っていくと、ホームシックの時にも心が落ち着きます。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

最も大きな成果は、「完璧な英語でなくても伝わる」という自信が持てたことです。以前は、正しい文法や単語を気にしすぎて話せないこともありましたが、毎日英語を使ううちに、間違いを恐れずに積極的に話せるようになりました。リスニング力も向上し、映画やニュースの内容が少しずつ理解できるようになってきたのを実感しています。また、多様な文化の中で生活したことで、自分の考え方や価値観もより柔軟になりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

「行ってからでもなんとかなる！」は本当ですが、準備をしておくことでさらに充実した留学になります。勉強だけでなく、自己紹介や自分の趣味などを英語で話せるようにしておくと、現地での会話がスムーズです。また、困ったときは一人で抱え込まず、ホストファミリーや現地のスタッフに相談する勇気も大切です。文化の違いに戸惑うことがあっても、驚きや発見を楽しむ気持ちを持てば、毎日が学びと成長の連続になります！

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

私はエンタメ業界で、特に音楽や映像に関わるプロデューサーになりたいと思っています。人を楽しませたり感動させたりするコンテンツを作るには、国境を越えた感性や多様な視点が必要だと感じています。今回の留学では、さまざまな国の友人と出会い、自分の意見を英語で伝える力が少しずつ身についたことが大きな財産になりました。将来、海外のアーティストともコラボできるような国際的プロデューサーになって活躍するのが目標です。

Ⅴ．写真



メルボルン旅行の際に、世界一美しい海岸道路であるグレート・オーシャン・ロードに行きました。ミスチルの MV 撮影現場としても有名で、日本人も多かったです。グレート・オーシャン・ロードは、1919 年から 1932 年の間に第一次世界大戦から帰還した約 3000 人の兵士により建設され、250km もあります。ヘリコプターの遊覧飛行ツアーもあり、費用は高いですが次に行くときにはぜひ乗りたいです。

S.D.（英語英文学科・２年次生）

Ⅰ．留学レポート

① 留学を目指した理由

高校の時から、漠然と留学に行きたいと考えていました。大学に入学し、留学について国際課に話を聞きに行き、セメスター語学留学について知りました。1 回生の時は、私生活が忙しく、留学について考えることがあまりなかったのですが、２回生の４月に、このままでは何も達成せずに大学生活が終わってしまうと思った頃に、セメスター語学留学の事後学習の案内を見かけました。そして、大学生の間に留学に行き、視野を広げ、英語力を上げたいと思い、セメスター語学留学に応募しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

今年からビザの取得が厳しくなったと聞いたので、ビザの発行が間に合わなくなることや、ビザが許可されないことがあるかと不安に思ったため、エージェントにお願いしました。書くことが多かったですが、ビザをスムーズに取得することができました。下宿のため、親に必要書類を市役所に取りに行ってもらい、送ってもらうことが多かったです。また親のサインが必要な書類もあったため、急いで実家に帰ることもありました。勉強は、単語を覚えることを中心にしました。

③ 現地到着後

オーストラリアは入国審査が厳しいと聞いていたのですが、そんなことはありませんでした。空港からホームステイ先までは、ホームステイの会社が手配してくれたバスに乗って行きました。私は 2 番目で、ゴールドコーストの空港から約 1 時間 30 分ほどでした。到着したあと、ホストマザーと一緒に Go Card を買いに行って、大学までの行き方を教えてもらいました。

オリエンテーションは 2 日間あり、1 日目はオンライン、2 日目は大学で、キャンパス紹介に参加したり Wi-Fi の設定をしたりしました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

グリフィス大学はとても広く、キャンパス内にジムやバー、カフェ、テニスコート、ビーチバレーコートなど様々な施設がありました。GELI の建物内には、給湯器や電子レンジもあります。スタッフの方々や先生たちはとても優しかったです。困りごとがおこったときに相談に行くと、とても親切な対応で最後まで面倒を見てくれるので、とても助かり安心できます。GELI の生徒が学習する建物は、トラムの駅やバス停から少し遠かったです。

◆ 授業内容、課題、試験

5 週間ごとにクラスと先生が変わります。同じレベルでも先生によって授業の進め方は様々でした。私は DEP4 と DEP5 のクラスで授業を受けました。DEP4 ではほとんど毎日課題がありましたが、あまり難しくなく、大変ではありませんでした。DEP5 ではほとんど課題はありませんでした。5 週目のテスト

には、Reading, Speaking, Listening, Writing の 4 つがあります。この試験の結果で、次のクラスのレベルが決まります。Writing は毎週小テストがあり、先生のフィードバックをもらえます。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は「Meetup」というアプリで見つけた、毎週月曜日に開催される国際交流のイベントに参加しました。そこには現地の人はあまりいなかったのですが、英語を話せる良い機会でした。また、GELI では、放課後に開催されるアクティビティがあったため、積極的に参加しました。時々、お金を払ってどこかに行くアクティビティがあるのですが、個人で行くよりも安いのでオススメです。ボランティアも GELI のアクティビティで参加することができました。

⑥ 現地での住まいについて

私は一度ホームステイ先を変えていただきました。最初のホームステイ先は、トラムの駅まで徒歩で約 5 分、学校までのトラムの乗車時間は約 15 分でとても立地が良かったです。どこへ行くにも便利でした。ホストマザーが日本人だったため、食事はほんとに美味しかったです。休みの日には一緒に出掛けることもありました。

次のホームステイ先は、最初に比べると通学距離は延びましたが、不便ではありませんでした。家からバス停まで約 15 分、バスの乗車時間は 5 分ほど、バス停から学校まで 5 分もかかりませんでした。食事は、主にお米や野菜を出してくれたため、日本食が恋しくなることはなかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

12 月半ばから、約 3 週間の長期休暇がありました。クリスマスイブはホストマザーの娘さんの家、クリスマス当日はお姉さんの家に行きました。年末年始は友達と 2 泊 3 日でシドニーへ旅行に行きました。オーストラリアに留学することが決まってから、シドニーで年越しをしたいと思っていたので、とても良い思い出になりました。船に乗ってシドニーの美術館や博物館にも行き、オペラハウスやハーバーブリッジも見ることができました。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

オーストラリアで生活していること自体が楽しかったです。私はよく暇な日に散歩に行っていました。学校からホームステイ先まで歩ける距離だったので、歩いて帰ることもありました。日本とは違う街の景色がとても楽しかったです。そんな中で 1 番思い出に残っているのは、帰国前に友達と”I ♡ Gold Coast”の T シャツを着て、サーファーズパラダイスに最後の朝日を見に行ったことです。長かったようで短かった留学生活の最後の思い出でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

韓国人のハウスメイトの子がいて、とても英語が話せる子だったので、ホストマザーとその子の会話についていくことができなかったことが少しつらかったです。私だけ理解できていないうちに話が進んで

いき、英語力の無さを実感しました。また、伝えたいことがあるのに英語で何と言えば良いのかわからないことも多くありました。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

お店が閉まる時間がとても早いことに驚きました。夜まで空いている店が少なかったです。カフェはほとんどが 15 時には閉まっていました。また、バスが時間通りに来ないことも多く、出発時間より先に行ってしまうことや、そもそもバスがキャンセルされて来ないこともありました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　日本から持っていって、特に役に立ったもの

授業でパソコンを使うので、パソコンは必ず必要です。変換プラグも 2、3 個持っていくと便利だと思います。ペットボトルの飲み物は高いので、水筒を持っていくことをお勧めします。また、日差しがとても強いため、日傘や日焼け止めなどの日焼け対策用品もあればいいと思います。虫も多いので、虫よけスプレーも持って行ってよかったと思います。

②　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

私はリスニング力とライティング力が伸びたと思います。ホストマザーが言っていることがほとんど聞き取れるようになりました。またライティングは、毎週小テストがあり、少しずつ伸びていることがわかりました。先生に褒めてもらえることもあり、自信につながりました。スピーキング力も留学に行く前より確実に伸びました。今回留学に行って、英語学習のモチベーションが上がりました。

③　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学に行くことは、英語力の向上だけでなく、日本ではできない経験ができる良い機会だと思います。実際にオーストラリアに行くと、日本では出会わないような人に会えたし、驚くことや気づくことも多かったです。ゴールドコーストはほんとにいい街で、留学する場所としてとても良いと思います。私は本当に留学に行ってよかった、良い経験ができたと思っています。

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路についてはまだ明確ではありませんが、英語を活かせる仕事に就きたいと考えています。

v．写真





クリスマスに、ホストマザーのお姉さんの家に行ったときの写真です。サーファーズパラダイスの近くに住んでいました。一緒にランチを食べたあとスイーツも食べて、散歩にも行きました。

R.I.（英語英文学科・2 年次生）

Ⅰ．留学レポート

① 留学を目指した理由

高校受験のときから大学在学中に留学することを決めていました。具体的な時期は、二年生になってから語学留学が二年生までしか行けないと知ったので、募集が始まった時に留学を決めました。英語に関係する学科で勉強するからには一度は海外で英語の授業を受けたいと思い語学学校で英語を学べる語学留学を選びました。海外に行った経験はほとんどなく、英語学習も Reading や Writing を中心とした授業が多かったため、Speaking を伸ばせる環境で勉強したいと考えました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まった後は説明会に参加し、すぐにビザ申請に必要な資料作成に取り組みました。自分でビザのベースを書いてからエクセル会社の方に文章の修正などを手伝っていただきましたが、このサービスがなければビザ申請を一人で完成できなかったと思います。語学の準備は、留学先ですぐに使える日常会話のフレーズを YouTube や Podcast を使って勉強するとともに、英単語を毎日少しずつ覚えるように習慣づけました。

③ 現地到着後

国内線への乗り換えでは時間に余裕がなく飛行機に乗り遅れないように大変でした。空港についてからは送迎バスを見つけるのに苦戦し、何度も空港を出入りしました。10 月 1 日のお昼過ぎにホームステイ先に到着し、学校のオリエンテーションが始まったのは 3 日からでした。その間にしっかりと体を休めて新生活に向けて準備することができてよかったです。英語での説明だったので理解できないのではないかと不安でしたが、学校の先生方はゆっくりと丁寧に、何度も説明してくださったので不安なく学校生活が始められました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

学校は日本と比べてとても広く、大学内にたくさんのカフェやレストランがあり、放課後も学内で楽しむことができました。また、図書館には自習スペースが十分にあったので、いつでも自由に集中して勉強ができる環境でとてもよかったと思います。語学学校でお世話になった先生方は色んな国の出身の方がいて、オーストラリアだけでなくたくさんの国の文化や習慣などについて学ぶ良い機会になりました。とても親身になり相談に乗ってくださる先生方のおかげで、充実した学校生活が送れたと思います。

◆ 授業内容、課題、試験

DEP5 では、会話メインの授業とともに、日本で今まで学習してきた文法内容をすべて英語で学習しなおすような授業でした。今までの文法を復習できたことは、TOEIC の対策になりよかったです。授業自体がすべて英語で行われ、リスニングの授業があるというわけではありませんでした。DEP6 に上がる

と、会話よりも、リーディングやライティングがメインの授業になりました。オーストラリアの大学に上がる学生が同じクラスだったため、アカデミックな内容の授業になり難しかったです。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

ボランティア活動でブリスベンで行われたブックフェスタに参加しました。初めてのボランティア参加だったのでとても緊張しましたが、説明してくださったスタッフの方も優しく、安心して活動に参加できました。海外の方から英語で質問された時には焦りと緊張で頭が真っ白になりましたが、何とか答えることができてとてもうれしかったです。この活動をきっかけにもっとたくさんのボランティアに参加したいと思いました。課外活動では、GELI のアクティビティとして開催されていた活動にはほとんどすべて参加し、その中でたくさんの友達を作ることができました。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先は一度変更していただきましたが、12 月から 3 月までお世話になったホストファミリーはとても親切で、私を本当の家族のように扱ってくださって幸せでした。同じ家に住んでいたルームメイトはみんなフレンドリーで一緒に過ごす時間が楽しく、寂しい思いをすることもなくて良かったです。食事はいつも手作りで野菜がたくさん入っているおいしいご飯でした。ホストファミリーは外食することもなく、休日でも時間をかけて私たちにご飯をつくってくれて、本当に感謝しています。平日のランチまで毎日サンドイッチとフルーツを持たせてくれました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

3 週間ほどの長期休みには、友達と一緒にシドニーへ国内旅行に行きました。ゴールドコーストとは全く異なった街並みだったのでまるで違う国にいるような気分になりました。初めて海外で年末年始を過ごし、日本とは違った盛り上がりと雰囲気を楽しむことが出来ました。ハーバーブリッジから上がる花火は本当に美しく、忘れられない思い出となりました。また、シドニーの博物館や美術館はとても広く、すべての展示に迫力があり、とても魅力的でした。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中は毎日が楽しかったです。特に思い出に残っているのは、クリスマスの日にホストファミリーと一緒にたくさんのクリスマス用の料理やオーストラリアの伝統的なスイーツを食べた時のことです。この日に食べた料理はどれも初めて食べる味で、特別な気分で幸せでした。また、台風が来て自宅待機になりホストファザーとルームメイトと一日中お菓子を食べながらマーベル作品映画を観て過ごしたことも、とても印象に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学生活一か月を過ぎた頃にホームシックになった時が一番しんどかったです。休日に一人で過ごす時間が増えて、家族とも会えなかったため今まで経験したことのないような孤独を感じました。ホスト

ファミリーに自分の思ったことをうまく伝えられないしんどさもあり、このまま帰国したいと思うほどにつらかったです。しかし、毎日家族や友達とビデオ通話をしたり、学校の先生に相談したりすることで、つらい時期を何とか乗り越えることができました。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

留学していた約半年間一度も湯船に浸からなかったことです。留学先のゴールドコーストは一年を通して暖かい気候の地域であることも関係しているのか、湯船に浸からなくても毎日簡単にシャワーで済ませられることはとても楽でした。しかし、日本に帰国して湯船に浸かってみるとやはりお湯に浸かると疲れが取れるし幸せな気分になるものなので、日本の文化はいいなと感じました。また、電車でのマナーの違いには驚きました。オーストラリアは多くの人が前の座席に足を置いていて、その姿を見ても誰も注意することがなかったことはとても驚きました。日本よりもみんな自由に自分の個性を大切にして生きている感じがして、前向きな気持ちになりました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは絶対に必要です。私が通った語学学校ではテキストは支給されず、すべて個人のパソコンを使って作業をしたので、いつも使い慣れているパソコンを持っていくといいと思います。また、クレジットカードは 2 枚用意し、1 枚は財布に、もう一枚はキャリーケースにしまっておく方がいいと思います。オーストラリアは気候が暖かいので、Tシャツやハーフパンツなど涼しくて軽いものをたくさん持っていくといいと思います。現地の服は日本の服より薄手で露出部分が多いものが多かったので、着慣れている服をもっていくことをお勧めします。

②　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

TOEIC の点数が 150 点以上上がったことが客観的には一番の成長だと思います。学校で、DEP6 のクラスの授業を受けていた時期は長文の説明文などの文章問題を解くことが多かったので、Reading のスキルは大幅に向上できたと感じます。また、日常的に英語で会話していたことから、Listening と Speaking のスキルが少し向上したと思います。何より、留学前と後を比べると英語を話すことに対する抵抗が少なくなり、楽しんで話すことができる気持ちを持てるようになったことが一番の成長だと思います。

③　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学が始まってすぐは新しいことばかりで不安や心配でいっぱいの毎日が続くと思いますが、次第に環境にも慣れると思うので、留学中にしかできない特別な経験をたくさんして、悔いのない留学生活にできるよう頑張ってください。文化の違いを感じることは多々あると思いますが、すべてがその国でしか経験できない貴重な体験になると思うので、その文化を受け入れて楽しみましょう。海外という英語を使うのに絶好の機会をもてるのだから、現地の人ともたくさん交流するといい思い出になると思います。

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は英語の中学教員になる事を目標に教職履修を取りながら、教員免許の取得に励んでいます。また、今は教員採用試験に向けて勉強しています。この留学で出会った先生方に刺激と影響を受けたことで理想の教師像がさらにレベルアップし、最強の教師になりたいというモチベーションアップにもつながりました。生徒から愛される教師になるために、まずはさらなる知識の構築に向けて努力しながら、たくさんの人に出会うことで内面の成長にも磨きをかけていきたいと思います。

Ⅴ．写真



最終タームで一番仲良かった韓国の同い年の女の子と学校の最終日にとった写真です。彼女とは毎日隣で授業を受けて、たくさん遊びに行きました。国が違うのにここまで仲良くなれるとは思わなかったので、この子に出会えて本当に良かったと思います。お互いの国に遊びに行く約束もしているので、会うのがとても楽しみです。

2024 年度（秋学期）
Griffith University（オーストラリア）

S.Y.（英語英文学科・2 年次生）

Ⅰ．留学レポート

① 留学を目指した理由

留学は、入学前から興味がありましたが、具体的にどのような種類の留学をしたいのかあまり考えていませんでした。留学を本格的に考え始めたきっかけは、幼い頃から英語を勉強してきたものの、日本国内で英語力を高めることに限界を感じたからです。また、将来キャビンアテンダントになりたいため、様々な国を訪れてその地域の文化や伝統を直接体験し、吸収したいという思いも強くありました。これらの理由から、実際に海外で生活しながら英語力を向上させることが自分の夢に近づくために必要だと考え、留学を決意しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学決定から出発までの準備期間では、AES コースを受講して、高い水準の授業により英語力の向上に努めました。また、趣味の映画鑑賞を英語で行うことで、リスニング力を向上させ日常会話表現に慣れることができました。一方で、ビザ申請の際に必要な支払いでトラブルが発生しました。クレジットカードの海外送金が詐欺と誤認され、決済ができず、解決までに非常に時間がかかってしまいました。この経験から、必要な手続きや支払いは余裕を持って早めに準備すべきだと痛感しました。特に海外関連の手続きは予期せぬ問題が起こりやすいため、事前の確認と準備が大切だと感じました。

③ 現地到着後

空港に到着すると、運転手の方が迎えに来られていましたが、日本人ではなかったため名前を正確に読めず、合流に少し時間がかかりました。私たちの大学の学生だけでなく、関西大学の女子の学生も一緒に乗っていました。（今でも仲良くしています。）私の滞在先は空港から一番近く、車に約 1 時間乗って到着しましたが、飛行機から降りた直後だったため車酔いに注意が必要でした。酔い止めがあるといいです。現地でのオリエンテーションでは、パソコンの設定方法などを教わりました。特に MacBook の設定は少し複雑だったため、話をしっかり聞いておいた方がいいです。また分からなかったら、遠慮せずに先生に聞いた方が、後々後悔することにならないのでいいです。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

語学研修施設はグリフィス大学の最寄り駅から徒歩 10 分ほどの場所にあり、建物は清潔感があり、教室内はディスカッションをしやすい配置になっていました。教室内は飲食禁止のため、昼食は外のベンチなどで取ることが多く、施設内にはお湯と電子レンジがあり便利でした。カップ麺やサンドイッチを持参している学生が多かった印象です。スタッフや先生方は、優しくて明るい人が多く質問にも丁寧に対応してくれましたが、中には少し厳しめの先生もいて授業中の集中が求められました。全体的に学習に適した良い環境でした。

◆ 授業内容、課題、試験

私が受けた DEP5 はスピーキングとライティングに重点があり、DEP6 はリーディングが中心の授業でした。どちらのレベルでも毎回授業にディスカッションが含まれており、実践的な会話力を養う機会が豊富でした。プレゼンテーションは基本的に最終週に行われました。課題については、毎日出す先生もいれば、ほとんど出さない先生もいました。中には時間がかかるものもあり、ホストマザーに手伝ってもらって進めたこともありました。テストは DEP5 では最終週、DEP6 では 3 週目と最終週に実施され、レベルの高い内容でした。真剣に取り組む必要がありますが、挑戦しがいのある充実した学習をすることができました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

語学研修中は、毎週課外イベントが開催され、最初の頃は毎回欠かさず参加していました。カフェで会話を楽しんだり、映画鑑賞、ボードゲーム、BBQ をしたりなど多彩な活動があり、国に関係なく友達を作る良い機会になりました。特に初めて挑戦したビーチバレーは、とても楽しく良い思い出です。また、ボランティア活動にも参加しました。不要になった本を他の人に譲るブリスベンで開催された「BOOK Fes」というイベントでは、本の整理や来場者が探している本を見つける手伝いをしました。英語を実践で使える場面が多く、交流の幅も広がり充実した体験でした。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先のホストマザーはとてもおしゃべりで、毎日たくさん話しかけてくれました。留学経験の少ない私にとってはそれが非常に嬉しかったです。また私のためにたくさんのお菓子を買ってくれて、自分専用の棚は常にお菓子でパンパンでした。部屋は快適でしたが、クーラーがなく、暑い日は少し大変でした。ホストファミリーはヨーロッパ出身で、夕食にはパスタやピザ、パンがよく出てきて、海外の食文化を楽しむことができました。通学は車で 15 分ほどでしたが、バスを利用すると約 1 時間かかるため、帰りに 6 キロ弱の道のりを歩いたこともあります。不便でもありましたが、それもまた現地の生活の一部で、良い経験になりました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇中は、友達と一緒に遊園地に行ったり、集まって遊んだり、楽しい時間を過ごしました。そして年末年始には同志社女子大のメンバーでシドニーへ旅行に行き、それが本当に最高の思い出になりました。美術館や博物館の見学、カジノの体験、さらにはクルージングにも参加し、観光とアクティビティを満喫できました。シドニーはゴールドコーストよりもずっと都会的で、街の雰囲気にとてもワクワクしました。ただ、年末年始だったこともあり、外食の値段が普段よりも少し高めだった印象があります。それでも、現地でしか味わえない特別な体験ができて、大満足の休暇になりました。

II．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中に体験したことはどれも楽しく、一番を決めれないほど充実していましたが、特に印象深いのは

海水浴です。日本のように浮き輪を使う人はほとんどおらず、現地の人たちは本格的に泳ぎを楽しんでいました。波も強く、水もとても綺麗で、まさに自然の中で遊んでいる感覚で、本当に楽しかったです。かなり日焼けしましたが、それもいい思い出です。また、長期休暇の過ごし方で書いたように、年末年始に訪れたシドニー旅行も忘れられません。都会的な雰囲気、美術館やクルージングなどのアクティビティ、そして仲間との時間、それらすべて特別で、充実した留学生活を象徴するような旅行でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中に大きなトラブルはありませんでしたが、いくつか苦労したこともありました。まず、食事の面では特にお米が日本のものと違っていて、あまり美味しく感じられなかったことは少し残念でした。また、現地ではお店の閉店時間が早く、夕方にはほとんどの店が閉まってしまうため、買い物や外出はいつも早めに済ませる必要があり、不便に感じることもありました。でも何より一番つらかったのは、留学生活が本当に楽しかったからこそ、帰国の時にとても寂しかったことです。たくさんの思い出と素敵な人たちとの出会いに恵まれた分、現地を離れるのが心から名残惜しく感じました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

現地で驚いた文化や習慣はいくつかありました。まず、部屋にノックなしで入ってくることが普通で、プライバシー感覚が日本とは大きく違い、最初は戸惑いました。また、ホストマザーは朝 5 時に起きて夜 10 時に寝る規則正しい生活をされていたので、私の生活リズムとなかなか合わず苦労しました。さらに、街ですれ違うほとんどの人が挨拶をしてくれるのがとてもフレンドリーで驚きましたが、信号を守らない人が多く、安全面で少し不安も感じました。食事面では、メインのみなど、日本と比べて品数が少ないことも意外でした。こうした違いを体験することで、異文化理解が深まり、自分の価値観を広げる良い機会になりました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 日本から持っていって、特に役に立ったもの

日本から持っていって特に役に立ったものはいくつかあります。まず、化粧道具はアジア製のものが現地では手に入りにくかったため、日本から持参して正解でした。また、パソコンは学習や課題提出に必須だったので持参しました。その他、コンタクトレンズや常備薬も必要で、現地で同じものを揃えるのは難しいです。さらに、日傘は現地ではあまり売っておらず、紫外線対策として非常に重宝しました。ヘアアイロンも日本製のものを使い慣れていたため、持っていってよかったです。これらの持ち物があったことで快適に生活できましたが、ほとんどの物が現地で買ったり、オンライン（某通販サイトは到着に時間がかかりましたが使用できました）で購入したりできる物が多いのであまりナーバスにならなくていい気がします。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学中は授業も生活もすべて英語だったため、特にリスニング力が大きく向上しました。日常会話だけでなく、アカデミックな内容も勉強できたことにより、TOEIC のスコアが 80 点もアップしました。こ

れまで苦手だった英語の理解が深まり、自信を持って話せるようになったことが一番の成果だと感じています。また、異文化の中で積極的にコミュニケーションを取れた経験から、英語力だけでなく自己表現力や積極性も向上しました。留学前と比べて、英語に対する苦手意識がなくなったので、今後もさらに力を伸ばしていきたいと思っています。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

英語環境に身を置くことで、リスニングやスピーキングの力は自然と伸びるので、積極的に話すことを怖がらないでほしいです。現地では授業や課題が大変なこともありますが、真面目に取り組めば確実に成果が出ると思います。また、ホストファミリーとの生活では文化や生活習慣の違いに驚くことも多いですが、それも留学の醍醐味だと思うように心がけるといいと思います。特に生活リズムが合わなかったり、ノックなしで入ってこられたりと戸惑うこともありますが、柔軟に対応するといいです。そして食事や買い物環境が日本とは異なるため、化粧品や薬、日傘など日本で準備できるものはしておくと安心です。また、現地に到着してから、マザーなどと通学時間や交通手段を事前に確認しておくことが重要です。留学中の友人づくりやイベント参加は勉強だけでなく思い出作りにもなるので、積極的に交流するといいと思います。留学は大変なこともありますが、それ以上に得られるものが多いので、ぜひ楽しんで挑戦してほしいです。

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来の目標は、キャビンアテンダントになることです。留学で身につけた英語力や異文化理解力を活かして、国際的な環境で働きたいと思っています。これから大学で参加する JAL の海外インターンシップでは、現場の経験を積み、コミュニケーション力やホスピタリティをさらに磨くつもりです。留学中にホストファミリーや友人にたくさん支えてもらったように、今後は私が人を助け、支えてあげられる存在になりたいです。将来は、多くの人に快適で安全な空の旅を提供し、世界中の人をつなげる架け橋となることを目指しています。

Ⅴ．写真



この写真は、ハロウィンの日にケーマートで買った服を着てメイクをして出かけたときのものです。多くの人が仮装していてとても賑やかでした。友達と合流して HUB や韓国料理を楽しみ、日本では味わえない体験でした。



この写真は、ゴールドコーストに遊びに来てくれたニュージーランドとメルボルンに留学中の親友たちと撮った一枚です。小学校からの仲で、現地で再会できて感動しました。シュノーケリングや遊園地にも行き、最高の思い出になりました。